

住吉第一中 校長室だより い つ ち ゆ う

1年生 一泊移住

(堺市立日高少年自然の家)

5.9, 10



入学して約一ヶ月。中学校生活の基礎を築くために、1年生は和歌山県の日高少年自然の家で、仲間と一緒に過ごしました。の日(水)の朝、バスで移動。初日は、午後から、自然の家の目の前の海での活動です。クラスごとに分かれて、力又、カヤック、サンドアートと内容が変わります。海では、ライフジャケットをつけ、パドルを持ってカヌーやカヤックに乗ります。初めは、パドルの使い方もわからなく、スマーズに前には進みません。しかし、時間が経つと上手にパドルをさばいてスイスイと進むグループも出でてきます。反対に、いつまでたっても行きたい方向に進まず、苦労していましたチームもありました。中には、カヤックやカヌーから落ちてしまって、冷たい思いをした人も出できましたが、仲間同士で助け合って楽しく過ごしていました。



5月号
H. 30
5. 31



発行者
中西利彦

2年生 校外学習 ハーベストの丘 5.10

夕食、入浴後、体育館でスタンツ大会でした。各クラスで事前に練習していたものを披露し、大いに盛り上りました。しかし、大阪にはない自然の中での友だちと集団で生活をすることを通して、仲間の大切さ、中学校生活で必要な基本的なことを教えてもらひことができたのではないのでしょうか?



年度初めに生徒会役員、学級役員が選ばれました。そして、認証状を授与しました。役員の人たちは、自分の責任を果たしてくれるのでしょう。しかし、選んだ人たちはどうでしようか。無関心を装って、協力をしないといふことはないでしようか。「選ばれた」責任と「選んだ」責任がともに果されていなければ、良い学校にはなりません。自分たちの学校が、学びやすい環境の学校であるよう、それぞれの立場で力を発揮してくだせり。また、認証式で、スマホやメール機能についてゲーム機などの使い方について、状況を把握したうえで、生徒会としてルールを作つてほしいと話をしました。忙しい生徒会の皆さんですが、是非頑張ってほしいと思ひます。



「選んだ責任」「選ばれた責任」

5月10日(木)、2年生は、堺にある緑のミュー
ジアムハーベストの丘に行きました。校外学習として、仲間づくり、自然との触れ合いなどの目標を持って出発しました。当日は晴天で暑いと感じたほどのお天気でした。ハーベストの丘では、班単位で「パン作り」「自然散策」「動物とのふれあい」などを行いました。班



(パン作り体験)



生徒会役員





「いじめについて考える日」

【内容】妹が転校したのは小学校4年生。その学校で、言葉がおかしいと笑われ、跳び箱ができるといじめられた。妹が配る給食もみんなは汚いと言って、受けとってくれない。とうとう、誰も口を聞いてくれなくなった。学校ではいつも一人ぼっち。遠足でも一人ぼっち。やがて、学校に行かなくなってしまった。ご飯も食べず、口もきかず、やせ衰えていった。母さんが、必死で、固く結んだ唇にスープを流し込み、抱きしめて一緒に眠り、ようやく妹は一命を取り留めた。そして、いじめた子は中学生になり、セーラー服で通う。楽しそうなその子たちの声は聞こえてくるが、妹は、ずっと部屋に閉じこもり本も読まない。音楽も聞こうとはしない。どこかをじっと見つめているだけ。さらに時間が流れ、いじめて子らは高校生に。窓の外を通っていく。笑いながら、おしゃべりしながら。ある日、妹はひっそりと死にました。

私はなぜずっと鶴を折っているかを考えた。学校で起きたことを忘れようとしてたのか。いじめていた人はあまり何も考えずいじめていたのかもしれないけど、いじめられている側にとっては、すごく苦痛なんだと思った。脳にもダメージがあることは聞いたことがなかったのでびっくりした。いじめは誰かの人生を奪ってしまうかもしれないから絶対にダメだ。今まであまりいじめについて考えてみなかったけど、もっと考えてみようと思った。

(略)人はみな同じじゃないし、自分だけの世界じゃないから嫌いな人、性格あえへんわって思う人がいたら、それが当たり前で、それが一人ひとりの個性なのに、それを受けなしたらアカンやろと思った。お互い悪いところじゃなく、良いところを見つけて、尊重し合える世界、クラスになったらいいなと思った。いじめられる子がいたら、味方になってあげたいなと思った。

(略)自分がしたいと思っていたこともできなくなってしまうほど、やっぱりいじめは人の人生に影響するのだと改めて思った。生きるために、最低限必要なことへの気持ちをいじめは失わせるという事が怖いと感じた。

自分も5年生のとき、クラスのみんなから嫌なあだ名で呼ばれたことがあって、その時、一番苦しかった。助けてほしくても、クラス全員に言われていたから、誰も助けてくれなくて、先生が来てやっと助けてもらえた。そんな苦しい日が毎日続くということは相当辛いしんどいことだと思う。

いじめが原因で自殺してしまう理由は辛かったから、自分をいじめたことを後悔させたかったからとかだと思っていたけど、いじめられたことによってヘビの脳がやられ、食べたくない、呼吸たくない、生きたくないと思い、自ら命を盾しむということを知った。生きたくないという気持ちは簡単に変えられないということが絵本からも読み取れるから、その時に周りの人が気を配ってあげて寄り添うことが大切だと思う。いじめの加害者は年月が経てば、忘れてしまうが、被害者は生きている間ずっと大きな傷を負わなければならぬことも分かった。

編集後記 5月28日(月)～30日(水)、3年生は修学旅行に。この様子は、本校ホームページでは紹介しましたが、次号で紹介する予定です。また、6月8日(金)は、本校の運動会です。すでに、各学年練習、全体練習などを通して、運動会に向けて取り組んでいます。大きな声で、溌剌とした動きで見る人たちに感動を与え、仲間で協力して頑張ったという達成感を味わえるような運動会をつくっていってほしいと思っています。スローガン「一中が創る 平成最後の運動会」

5月7日(月)、4限に体育館で「いじめについて考える日」をして絵本を皆さんに紹介しました。「わたしのいもうと」(松谷みよ子 文)という本で、作者が受け取った手紙にあった実話です。いじめが、人の人生にどれだけの影響を与えるものかを、そして人が当たり前に暮らすことでもできなくなってしまう怖さも知つてほしいと思いました。紹介した後、教室で書いてもらった文章を一部紹介します。(全年年分を無記名で紹介)なお、本校のホームページにはさらに多くの文章を紹介しています。

妹はいじめられていたけど、いじめていた人よりすごく強いんだと思った。(略)妹が死ぬことによって、絵本の語り手の姉もショックを受けたと思うし、両親が一番悲しんだと思った。両親は、自分たちより先に子どもが死ぬということも悲しかったし、こんな死に方をしてほしくなかったと思う。妹をいじめた人たちは、自分は何もやっていないという感覚でも、人を一人殺したこと一緒なのではないかと思った。

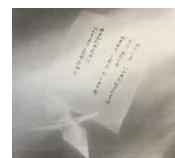
いじめた人は何も思っていないけど、いじめられて人はとてもかわいそうと思った。ぼくがいじめられたら、そのいじめた人を忘れないでおく。きっと同じだと思う。死ぬのはもったいないと思う。僕ならはっきり家族に言います。

いじめがは本当に最低だなと思う。見て見ぬふりをなぜできるのかもわからない。小学校のときとかいじめをしていた自分がとても恥(ずかしい)です。いじめでは、いじめられる側にも何かあるとかいうけど、(それが)、いじめていい理由にはならないと思う。同じ人間やし、うっとしいところもいっぱいあるけど、それをいつまでも引きする意味がわからない。(中略)自分はいじめを見て見ぬふりをすることは絶対にしたくないです。いじめられる側に何かあっても周りから見たら邪魔な行動でも、その苦しんでいる人のためになるなら周りの目は気にしません。

いじめはささいなことから最後にはひどいいじめになっていくことだと改めて感じた。私も4年生の時に、いじめられていたことがあったので、妹の気持ちがよくわかる。いじめは、している側からしたら何ともないかもしれないけど、される側からするととても辛くて苦しいこと。だから、いじめは。ダメだと改めて思った。

いじめるのはいけないことだけど、それに自分も参加したり、見て見ぬふりをしたりすることも同じくらいしたらいけないと思う。あと気づいてあげることも大切だと思う。

いじめるような人間にはなりたくないと思った。





転校する学校は、どんなのかと楽しみだったのに、クラスのみんなにひどいことをされて、もういやだ、学校に行きたくないと妹は思ったと思う。つるを折っているのは、つるを折っているときだけは、心が落ち着いたのかなと思う。死ぬ前の手紙がとても悲惨なさけびに思えた。

跳び箱ができないだけで、いじめられるとかいじめてる人々は、人の弱いところだけを見て攻撃する弱い人間だと思った。ありもしない情報を流して、それを信じて、ただ見てる人とともに同じだと思った。妹は、がんばって学校に行ってた時は、まだ辛いとか悲しいとか感情があつただろうけど、ご飯を食べることをやめてしまった時にはもうすでに感情もあまりなかったんじゃないかなって思いました。人の心はもろいから、少しの言葉で壊れてしまうから、一人ひとりが互いに支えあって、平和な世界を望むけど、それはとても難しいことだろうなと思いました。

いじめている人は、かんたんに忘れてしまう。見えないとことで、分からないようにいじめる。いじめている人は自分は悪くない、みんながやっているからって思っていると思う。でも、いじめられる人は、心だけじゃなくて脳まで傷ついてしまって、食べたいとか呼吸したいとかそういう気持ちまでなくなって、死んでしまう人もいる。いじめた人の中には、ホントは助けてあげたいと思っていた人もいたかもしれない。でも、自分が助けたら次は自分で一緒にいじめられてしまうって、どうしても思ってしまうと思う。それでも、そう思っていた人が妹と遊んであげたりできいたら、妹は助けられたんじゃないのかな。もし自分がいじめられている人を見たり、そのいじめに加わらず、助けてあげたいと思う。一人でもそんな人がいることでいじめられている人は助けられると思うから。

いもうとは、転校する前、とても楽しみで、友達もたくさん作りたいと思っていたと思います。私も、小学校の時、転校したことがありました。はじめは、少し「ぼっちぎみ」だったけど、みんながどんどん話しかけてくれたので、友達もできました。転校をしても友だちができるものだと思っていたので、この単元のいもうとのようにいじめにあつたりすることもあると思うと、すこしこわいなと思いました。このいもうとの、本当はみんな遊びたかったはずなのに、運悪く、いじめにあつてしまって、かわいそうだと思います。私は絶対いじめをしたくありません。

○この話の中に出できたいじめは、多分最初に言い出した人は本当に軽いノリやったとおもう。だからいじめてる側はいじめと思っていたなかっただろう。集団いじめやけど、中にはヤバいと思っている人もいたと思う。でもやっぱり集団いじめやから2人や3人がアカンと思っても集団には負けると思う。自分は小学校の時、いじめたりいじめられたりを繰り返してたからわかるけど、集団いじめを反対したら、その人へのいじめはなくなるけど、反対したこちらがいじめられる。まわりは絶対にアカンと思ってる。だからいじめをなくすのは本当に難しい。(略)割っていても見て見ぬふりをする。友だちを助けたくても、「自分が大事」が先に出る。勇気がない。

(略)いじめをなくそうとか言ってるけど、全然なくならへんし、イジメられた方は、ずっと忘れられへんし、ずっと憎んでる。けど、いじめた方は何にもなかったかのように、しゃべりかけてて、また仲良くしようとか言ってくる。こっちの気持ちは何にも考えてくれへん。

○妹の気持ちを読んで、一緒に遊んだり勉強したかったのかなと思ったし、逆にいじめた人たちのせいで何もできなかつたというのを伝えたかったのかなと思った。いじめが始まるのは、誰かが始めるからやし、それを見ていた周りの人は、いじめに流されたから一緒にやっていたんだと思う。誰か一人でもそれはいけないことと言ってたら、おさまっていたかもしれない。けど、それを言うのは、すごい勇気がいることだと感じた。

いもうとはまだ小さくて、これからいろんなことを知るはずだったのに、とてもかわいそう。いじめた側はかんたんに忘れるができるだろうけど、いじめられた側は一生心に残るし、つらい。いもうとはとてもかわいそうだなと思いました。きっと家の外からしゃべったりするのが聞こえた時、とてもつらかったと思う。もっと楽しく遊んだりしたかったと思った。家でとじこもっていたとき、きっとさびしかっただろうなと思う。

みんなが一緒に、どうして私だけいじめられなければならないの?少しだけ、話す言葉が違うだけなのに、なかまはずれにするの?わたしはみんなと一緒に楽しく過ごしたかったのに、家に一人でいるのはとてもさびしかった。声をかけると、またいじめられるかもしれない。だから、家族にもどうすればよいか聞けなかった。こんなのが、毎日続くなら、早く死にたいと思った。けれど、お母さんやお姉ちゃんが励ましてくれたときは、少し勇気が出た。

妹の気持ちを考えると、鶴を折っている気持ちは、みんなでいっしょに遊びたかった。みんなにいじめをされていたら自分は一人ぼっちやから、みんなで一緒に遊びたかったと思う。鶴を折ることは、自由に空を飛んだり楽しいことをしたかったからかな。

